

教科	科目	学年・課程	単位数
国語	現代文B	2年 普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 近代以降の文章について、読解・鑑賞の方法を習得し、ものの見方・考え方を深めること、また、自分の考えをまとめて適切に表現する能力を身に付けることが目標です。 2 1年次の国語総合（現代文の分野）で養った「読む」力・「書く」力を、自分に必要な具体的な“生きる力”に高めていきます。			
学習の内容			
評論・小説・随想・韻文の4つのジャンルについて、近・現代を代表する筆者（作者）の作品を読み、現代文へのアプローチの仕方や読み解き方を学びます。理解や表現に必要な、基礎的な語彙力を充実させることに力点をおいて学習します。 学習予定作品は、随想：「わたしはあなただったかもしれない」「『私』という『自分』」小説：「デューク」 評論：「新しい地球観」「ヒトはなぜヒトになったか」詩：「この世」「永訣の朝」随想：「情けは人の…」「『マジ?』」評論：「コミュニケーションの文化」「名所絵はがきの東西」小説：「こころ」です。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているかを評価します。 2 話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 3 書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 4 読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。 5 知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の5つの評価の観点から総合的に評価します。 2 考査、授業ノート、提出物、小テスト、授業・課題への取り組みなど、全ての学習活動を評価の対象とします。			
その他			
「読む」「書く」「話す」「聞く」能力は、我々の生活や自己実現にとって欠かせない、基本的な能力であり、その根本は、すでに家庭生活や義務教育の中で育まれているでしょう。 しかし、我々の生きる社会は日々多様化し、複雑さを増しています。特に、21世紀を担う皆さんは、世界中の（宗教や歴史政治信条の異なる）人々と対話していかなければなりません。そのような人々ともスムーズに意思疎通でき、さらに、深く豊かな情操を感得し、普遍的な人間性に思いを致すことが、混迷する現代を生き抜く力を支えるものと信じます。 それには、まず、何度も何度も繰り返し読み書くことです。何度も書く、何度も読むことは、学力を定着させる一番の近道です。文章を声に出して読んでみてください。そして、五感をフルに活用して、楽しく取り組みましょう。 また、本や新聞を読むことは、語彙を豊かにし、考える力を養い、人間や社会現象の理解を深めます。本校では、『朝の読書』に取り組んでいます。これをよい機会として、本に親しんでください。 授業で分からないことがあったら、すぐに質問しましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
国語	古典B	2年 普通科Ⅱ・Ⅲ類型	3
学習の目標			
1 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を養います。 2 進路目標に応じた古典の学力を身に付けることも目標とします。			
学習の内容			
1 古文編 国語総合での学習内容をふまえて、古文を読むことに必要な基礎知識（古典文法や古文単語など）を身に付けながら、内容を把握した上で、筆者の考えや登場人物の心情などを理解し、表現方法の特色などにも注目して、作品を読み味わうことを目標に学習します。 学習予定作品は 説話：「大江山の歌」 物語（一）：「竹取物語」 随筆：「徒然草」 和歌：「小倉百人一首」 日記：「土佐日記」「更級日記」 物語（二）：「平家物語」 紀行文：「奥の細道」です。 2 漢文編 国語総合での学習内容をふまえて、漢文を読むことに必要な基礎知識（訓点・語法・漢詩のきまりなど）を身に付けながら、内容を把握した上で、筆者の考えや心情、登場人物の人物像などを理解し、表現方法の特色などにも注目して、作品を読み味わうことを目標に学習します。 学習予定作品は 故事・小話：「知音」「糟糠之妻」 漢詩と文：「静夜思」「登岳陽樓」「香炉峰下、新卜山居草堂初成、偶題東壁」「雜説」「桃花源記」 史話：「鴻門之会」 寓話：「塞翁馬」「出藍營」です。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしているかを評価します。 2 話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。 3 読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。 4 知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の5つの評価の観点から総合的に評価します。 2 考査、授業ノート、提出物、小テスト、授業・課題への取組など、全ての学習活動を評価の対象とします。			
その他			
古典の学力は家庭での予習に比例すると言われています。家庭での学習時間をしっかり確保して、授業に臨むように心がけて下さい。辞書は必需品です。古語辞典を必ず用意しましょう。また、教材を必ず音読することが大切です。 授業でわからないことがあったら、すぐに質問をしましょう。			

教科	科 目	学年・課程	単位数
地理歴史	地理B	2年普通科Ⅲ類型	2
学習の目標			
1 世界の人々の生活する環境を科学的に理解することを目指します。 2 世界が直面する諸課題に対する多様な見方・考え方を学び、その解決に向けて主体的に考える態度を養うことを目指します。			
学習の内容			
第Ⅰ編 地図と地理的技能 地球儀の活用や時差に関する学習から地球が球体であることを確認し、1枚の世界地図は球面上の情報をすべて正しく表現できないこと、使用目的に応じて図法の異なる世界地図を使うことを学習します。さらに、地形図、都市計画図、住宅地図などの特色を学び、地域調査の目的や方法に適した地図を選択し、入手できる能力を身に付けます。 第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察 人間生活を取り巻く環境、地形や気候について学習します。さらに、産業の発達とその変化、そして農林水産業、鉱工業について学習します。また、我々の生活に関連させて、世界の人々の生活や文化を学びます。その他、世界の人口・食糧問題について学習します。さらに、都市問題、環境問題、民族問題について考え、今後の日本の国際社会における役割を考えていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 地理的事象に興味・関心や探求心を持ち、意欲的にそれらに取り組んでいるか、また、積極的な授業態度が身に付いているかを評価します。 2 思考・判断・表現 世界各地でおきている様々な事象を把握するとともに、身近な地域社会で自分は何ができるのかということが考察できているか、さらにその考察内容の研究・分析を行い、それらを表現できるかを評価します。 3 資料活用の技能 統計資料を読み解き活用する力を身に付けているかを評価します。 4 知識・理解 地理に関する基本的な内容を理解するとともに、さらに実生活に役立つ知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 関心・意欲・態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 資料活用の技能 … 授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 4 知識・理解 … 定期考査の結果をもとに評価します。			

教科	科 目	学年・課程	単位数
公民	現代社会	2年普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
1 広い視野に立って、現代社会の基本的な問題について主体的に考え、公正に判断する力を養うことを目指します。 2 人間としての在り方・生き方について考える基礎的な力を養い、良識ある公民としての必要な能力を養うことを目指します。			
学習の内容			
第1部 わたしたちの生きる社会 現代社会における地球環境問題・資源エネルギー問題さらに生命倫理などの諸課題について、その要因や取組について学習していきます。 第2部 現代の社会と人間 【第1編】 青年期と自己の形成 現代社会を社会生活の面からとらえます。第1章では、青年期の課題と私たちの今後の人生における社会への参加について考えます。第2章では、哲学や宗教、先人の教えからよく生きることとは何か考えます。 【第2編】 現代の民主政治と日本国憲法 現代社会を政治の面からとらえます。第1章では、民主政治の原理と成立の歴史、その課題について学習します。第2章では、日本国憲法の成立とその基本原理を学習します。そして、主権者として基本的人権と平和を守るにはどのように行動していけばよいかを考えていきます。第3章では、現代の民主社会について学習し、私たちが国や地方の政治にどのように参加したらよいかを考えます。 【第3編】 現代の経済社会と国民生活 現代社会を経済の面からとらえます。第1章では、経済活動とはどのようなものを学習します。第2章では、経済活動の中心といえる企業の活動を通して現代の日本経済の様子を学習します。また、日本経済を財政・金融・消費者の面からとらえます。そして、これからの経済のあり方について、環境・福祉の視点を中心に考えていきます。 【第4編】 国際社会と人類の課題 グローバル化が進んでいる国際社会を経済・政治の両面から学習します。また、世界から求められている日本の役割や、真の共生社会をめざして私たちがどのように取り組み、行動していくべきかを考えていきます。 第3部 共に生きる社会を目指して 発展途上国と先進国との共生、自由や幸福を次の世代にわたって受け継ぐための課題について考えていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 現代社会に関する出来事に興味・関心や探求心を持ち、意欲的にそれらに取り組んでいるか、また積極的な授業態度が身に付いているかを評価します。 2 思考・判断 日本が世界の中でどのような立場に置かれているのかという現状を把握するとともに、身近な地域社会や、グローバル社会の中で自分は何ができるのかということを考察できているかを評価します。 3 技能・表現 統計資料を読み解く力を身に付けているか、さらにさまざまな資料に対する内容の研究・分析を行い、それらを理解・整理し表現できるかを評価します。 4 知識・理解 現代社会に関する基本的な内容を理解するとともに、さらに実生活に役立つ知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 関心・意欲・態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 資料活用の技能 … 授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 4 知識・理解 … 定期考査の結果をもとに評価します。			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
数 学	数 学 II	2 年普通科 II ・ III 類型	4
学習の目標			
1	いろいろな式 数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにします。		
2	図形と方程式 直線や円などの平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにします。		
3	いろいろな関数 三角関数、指数関数及び対数関数について理解し、関数についての理解を深めそれらを具体的な事象の考察に活用できるようにします。		
4	微分・積分の考え 具体的な事象の考察を通して微分・積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにします。		
学習の内容			
1	いろいろな式 式と計算、等式・不等式の証明、複素数と方程式の解、高次方程式について学習します。		
2	図形と方程式 点と直線、円、軌跡と領域について学習します。		
3	いろいろな関数 三角関数と加法定理、指数関数と対数関数について学習します。		
4	微分・積分の考え 微分係数と導関数、関数の値の変化、積分法について学習します。		
評価の観点			
1	関心・意欲・態度 数学的活動を通して式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法における考え方に興味をもっているか、また、意欲的に課題に取り組むとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを身近な事象の考察に活用しようとする態度を身に付けているかを評価します。		
2	数学的な見方や考え方 数学的活動を通して式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法における数学的な見方や考え方を見いだそうとしているか、また、見いだした数学的な見方や考え方をもとに事象をとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えているかを評価します。		
3	数学的な技能 式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法において、事象を数学的に考察して適切な計算方法やグラフを用いて処理できているか、事象を表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できているかを評価します。		
4	知識・理解 式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法における基本的な概念、原理・法則、用語記号などを理解し、基本的な知識を身に付けているかを評価します。		
評価の方法			
1	上記の4つの評価の観点から総合的に評価します。		
2	調査・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とします。		

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
数 学	数 学 B	2 年普通科Ⅱ・Ⅲ類型	2
学習の目標			
1 平面上のベクトル 平面上のベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係を平面上のベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにします。 2 空間のベクトル 空間のベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係を空間のベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにします。 3 数列 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを用いて事象を数学的に考察し処理できるようにします。			
学習の内容			
1 平面上のベクトル ベクトルとその演算、ベクトルと平面図形について学習します。 2 空間のベクトル 空間のベクトル、座標空間における図形について学習します。 3 数列 等差数列と等比数列、いろいろな数列、数学的帰納法について学習します。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 平面上のベクトル、空間のベクトル、数列における考え方に興味をもっていか、また、意欲的に課題に取り組むとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを身近な事象の考察に活用しようとする態度を身に付けているかを評価します。 2 数学的な見方や考え方 平面上のベクトル、空間のベクトル、数列における数学的な見方や考え方をいいたそうとしているか、また、見いだした数学的な見方や考え方をもとに事象をとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えているかを評価します。 3 数学的な技能 平面上のベクトル、空間のベクトル、数列において、事象を数学的に考察して適切な計算法やグラフを用いて処理できているか、事象を表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できているかを評価します。 4 知識・理解 平面上のベクトル、空間のベクトル、数列における基本的な概念、原理、法則、用語記号などを理解し、基本的な知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 上記の4つの評価の観点から総合的に評価します。 2 考査・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とします。			

教科 理科	科目 物理基礎	学 年 ・ 課 程 2 年 普通科Ⅲ類型	単位数 3
学習の目標			
物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を身につけることを目標とします。			
学習の内容			
1 運動とエネルギー 等加速度運動と力学的エネルギーについての基礎的な考え方を身につけます。 2 熱 熱の本質を知り、エネルギーとの関係を学びます。 3 波 波とは何か、波がどのように伝わるのかを調べ、波の性質を学びます。 4 電気 電気に関わる法則を学習し、交流や電磁波についての学習を深めます。 5 物理学と社会 人類の活用するエネルギーの種類や活用法などを学び、物理学と生活との関わりを学びます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 物理的な事物・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的なものの見方を身につけているかを評価します。 2 思考・判断・表現 物理的な事物・現象の中に問題を見だし、観察・実験などを行うとともに実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、事実に基づいて科学的に判断することができるかを評価します。 3 観察・実験の技能 物理的な事物・現象に関する観察実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身につけ、観察・実験の過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができるかを評価します。 4 知識・理解 観察・実験などを通して、物理的な事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているかを評価します。			
評価の方法			
1 評価の内訳は、「関心・意欲・態度」20%、「思考・判断・表現」30%、「観察・実験の技能」20%、「知識・理解」30%です。 2 定期考査、授業中の様子、観察・実験の技能、課題の提出状況などをもとに評価を行います。			
その他			
○ 理学、工学系の進学希望者が中心の講座です。 ○ 授業でわからないことがあったら、すぐに質問しましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
理科	化学基礎	2年普通科Ⅲ類型	3
学習の目標			
1 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養うことを目指します。 2 進路目標に応じた理数系の能力を身に付けることを目指します。			
学習の内容			
1 物質の成り立ち 物質の探究、物質の構成粒子、物質と化学結合について学び、基本的な原子、分子、イオンの概念を整理して内容を深化させます。化学と人間生活に関連して、文明の中で変遷してきた金属やプラスチックの概要を学びます。 2 物質の変化 基本となるモルの概念、酸と塩基、酸化・還元の項目について学習し、発展的な河川水の汚染状況の調査や備長炭電池などエネルギーや電気分解について探究します。化学と人間生活に関連して、食品添加物、洗剤、農薬、セラミックスなど具体的な物質を学習し、理解を深めていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 化学的な事物・現象に関心を持ち、意欲的に探究して化学的なものの見方を身に付けているかを評価します。 2 思考・判断・表現 化学的な事物・現象の中に問題を見だし、観察・実験などを行うとともに、実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、事実に基づいて導き出した考えを表現できるかを評価します。 3 観察・実験の技能 化学的な事物・現象に関する観察実験の技能を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理できるかを評価します。 4 知識・理解 観察・実験などを通して、化学的な事物・現象についての基本的な概念や原理や法則を理解し、知識を身に付けているかを評価します。			
評価の方法			
1 評価の内訳は、「関心・意欲・態度」20%、「思考・判断・表現」30%、「観察・実験の技能」20%、「知識・理解」30%です。 2 定期考査、授業中の学習の様子、観察実験の技能、課題の提出状況などをもとに評価を行います。			
その他			
○化学の実験では、薬品を使用しますので、先生の指示に従って安全に実験してください。 ○夏休み等の長期休業前にサイエンス関連の催しものを紹介するので、希望者は積極的に参加して学習を行ってください。 ○授業でわからないことがあったら、理科の先生へすぐ質問しましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
理科	生物基礎	2年 普通科Ⅲ類型	3
学習の目標			
1 生物や生命現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高めま す。 2 生物学的に探究する能力や態度を身につけながら、基本的な概念や原理・法則を理解し て科学的な自然観を身につけることを目指します。			
学習の内容			
1 生物と遺伝子 生物が細胞からできていること、細胞内の小器官の働き、DNAの構造、細胞分裂との関 係、また遺伝情報からタンパク質を合成する仕組みについて発展的な内容まで詳しく学び ます。 2 生物の体内環境の維持 心臓と血液の循環、自律神経系、内分泌系、免疫について発展的な内容まで学びます。 3 生物の多様性と生態系 植生の遷移や、分布、バイオームについて学びます。特に生態系とその保全について発 展的な内容まで詳しく学びます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 生物的な事物・現象に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、生物 学的なものの見方を身につけているか評価します。 2 思考・判断・表現 生物的な事物・現象の中に問題を見いだし、観察・実験などを行うとともに、実証的・ 論理的に考えたり、分析的・総合的に考察し、事実に基づいて導き出した考えを表現で きるかを評価します。 3 観察・実験の技能 生物的な事物・現象に関する観察実験の技能を習得するとともに、それらの過程や結果 を的確に記録、整理できるかを評価します。 4 知識・理解 観察・実験などを通して、生物的な事物・現象についての基本的な概念や原理や法則を 理解し、知識を身につけているかを評価します。			
評価の方法			
1 評価の内訳は、「関心・意欲・態度」20%、「思考・判断」30%、「観察・実験の技能・表 現」20%、「知識・理解」30%です。 2 定期考査、授業中の学習の様子、観察・実験の技能、課題の提出状況などをもとに評価を 行います。			
その他			
○生物の実験では、薬品を使用しますので、先生の指示に従って安全に実験してください。			
○授業でわからないことがあったら、理科の先生へすぐ質問しましょう。			

教科	科目	学年・課程	単位数
保健体育	体育	2年普通科・ライフデザイン科	2
学習の目標			
各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。			
学習の内容			
体づくり運動では、自己の体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動を行います。特に体力を高める運動を行い、体力の増進を目指します。体づくりでは運動実施後の達成感や充実感が得られるよう、内容を精選しコミュニケーションや人とのふれあい、言語活動能力を養っていきます。 球技では、年間の気候を考慮した授業を計画します。ネット型(バレーボール・バドミントン・テニス・卓球) ベースボール型(ソフトボール) ゴール型(サッカー・バスケットボール)から選択し、ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から、作戦をたてたり、工夫をすることの楽しさを味わいます。 陸上競技では、学校外のコースを自分の能力に応じたペースで走ったり、記録に挑戦したりして、自己の課題を克服する気持ちを育てます。 体育理論ではスポーツのルールはもちろんのこと運動の大切さやメカニズムについて理解させ、生涯を通じて運動を実践できる能力や態度を養っていきます。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように自ら進んで計画的に運動しようをしているか評価します。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いているか評価します。 健康や安全に留意して運動しようとしているか評価します。 2 思考・判断 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけだしているか評価します。 課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫しているか評価します。 3 運動の技能 己の能力と運動の特性に応じた課題の克服を目指して運動を行い技能を高めているか評価します。 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけているか評価します。 4 知識・理解 社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し身につけているか評価します。			
評価の方法			
1 各運動種目とも、スキルテスト・グループノート等を利用して評価します。 特に集団競技においてはグループでのミーティング・グループ練習での活動を大切にし、ゲーム終了後にチームの問題点をフィードバックして修正する時間を与え、活動の様子も評価します。 2 各運動種目とも、「関心・意欲・態度 20%」「思考・判断 20%」「運動の技能 40%」「知識・理解 20%」で評価します。			

教科	科目	学年・課程	単位数
保健体育	保健	2年普通科・ライフデザイン科	1
学習の目標			
今後の生活に必要なかつ大切な健康・安全に関する理解を深めながら、自らの健康を適切に管理する態度を養い、将来活用し生かすことのできる力を身に付ける。			
学習の内容			
第2章 生涯を通じる健康 「生涯の各段階における健康」では、思春期における心身の発達や健康問題について理解し、健康な結婚生活の基盤となる適切な意志決定や良好な人間関係を築くことが必要であることを学習します。 「保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」では、生涯を通じて健康を保持増進するためには、我が国の保健・医療制度や機関について知り、地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることを学習します。			
第3章 社会生活と健康 「環境と健康」では、人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあり、これには、様々な対策がとられていることを学習します。 「環境と食品の保健」では、学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、環境衛生活動が行われていることを学習します。また、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることを学習します。 「労働と健康」では、職業病や労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化を踏まえた健康管理及び安全管理を行うことが必要であることを学習します。			
評価の観点			
1 関心・意欲・態度 健康の保持増進に必要な事柄について関心を持っているか評価します。 仲間と協力して資料を集めたり、意見交換したりするなど意欲的に授業に参加しているか評価します。 2 思考・判断 自分のこれまでの学習や体験、資料などを基にしたり、他の人の意見や考えを聞いたりして、課題の設定や解決の方法を考えて行動しているか評価します。 3 知識・理解 適切な生活行動を選択し、実践すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解しているか評価します。 個人生活及び社会生活の健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身につけているか評価します。			
評価の方法			
1 観点別評価基準に基づいて、授業態度の観察、ノート、実習、レポート、定期考査等を参考に評価します。 また、各項目ごとに関連性のある旬の話題やニュースを各自持ち寄って情報交換をし、知識として備えていればよい事項を発表させ評価します。 (授業態度の観察、実習の評価)			

教 科	科 目	学 年 ・ 課 程	単位数
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	2年普通科Ⅱ・Ⅲ類型	4
学習の目標			
1 英文を読んだり聞いたりして、情報や考えを理解し、概要や要点をとらえることができるようになることを目指します。 2 聞き手に伝わるよう音読ができるようになることを目指します。 3 学んだことに基づき、英語で書いたり話し合ったりして意見の交換ができるようになることを目指します。			
学習の内容			
Lesson 1 Take a Shot or Not (It is [was] +形容詞〔名詞〕+that節) Lesson 2 Ethical Fashion (助動詞+受け身) Lesson 3 Landfill Harmonic (関係副詞) Lesson 4 Icons of Scotland (関係代名詞の非制限用法) Lesson 5 Japan's Secret Health Food (分詞構文(過去分詞)) Lesson 6 Vegetable Factories (進行形の受け身) Lesson 7 The Power of Color (同格を表す接続詞that) Lesson 8 Miu and Mima, Friendly but Tough Competitors (付帯状況を表すwith) Lesson 9 From Owning to Sharing (強調表現(助動詞による強調)) Lesson10 Solar Cooking (be動詞+to不定詞)			
評価の観点			
1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを評価します。 2 外国語表現の能力 学習したことや与えられた話題について、英語で話したり書いたりして表現できているかを評価します。 3 外国語理解の能力 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解しているかを評価します。 4 言語や文化についての知識・理解 言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期の評価は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解を総合的に評価します。 2 授業での小テストや課題への取組、提出物、授業態度なども評価の対象とします。 3 長期休業中の課題および実力テストの結果も評価の対象とします。			

教科	科目	学年・課程	単位数
外国語	英語表現Ⅱ	2年普通科Ⅱ・Ⅲ類型	2
学習の目標			
1 学んだことに基づき、情報や考えなどをまとめて発表できるようになることを目指します。 2 情報や考えが相手に適切に伝わるように書くことができるようになることを目指します。 3 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ることができるようになることを目指します。			
学習の内容			
Lesson 1 You have several traditional events. 主語の決定、見えない主語の発見、主語のit、主語になる名詞句、形式主語、無生物主語 Lesson 2 How did your work experience go? 自動詞と他動詞、SVO、SVOO、SVC、SVOC Lesson 3 Let me tell you a story. 使役動詞、知覚動詞、動詞+O+to do Lesson 4 I want to work as an air traffic controller. 「～する」、「～している」、「～した」、「～していた」 Lesson 5 I wish I could have such experience again. 義務・必要を表す助動詞、推量を表す助動詞、仮定法過去、仮定法過去完了 Lesson 6 This is a photo taken in Vancouver, Canada. 名詞を修飾する語句、関係代名詞、関係副詞 Lesson 7 Are cell phones an essential part of our lives? 副詞、副詞句、不定詞や分詞を使った副詞句、副詞節 Lesson 8 Which do you like better, cars or dogs? 原級、比較級、最上級、最上級の意味を表す表現			
評価の観点			
1 コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを評価します。 2 外国語表現の能力 学習したことや与えられた話題について、英語で話したり書いたりして表現できているかを評価します。 3 外国語理解の能力 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解しているかを評価します。 4 言語や文化についての知識・理解 言語やその運用についての知識を身に付け、その背景にある文化などを理解しているかを評価します。			
評価の方法			
1 各学期の評価は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化についての知識・理解を総合的に評価します。 2 授業での小テストや課題への取組、提出物、授業態度なども評価の対象とします。 3 長期休業中の課題および実力テストの結果も評価の対象とします。			